

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名 城東区
学校名 大阪市立鯫江小学校
学校長名 齋藤 都

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・鯫江小学校では、第6学年 134名

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率を全国平均と比較すると国語は0.8P、算数は4.5P上回る結果となった。平均無回答率は、すべての教科において全国平均より低い。これらのことから粘り強く最後まで取り組んだ姿勢がうかがえる。また、基礎・基本の内容については、身に付いていると考えられる。領域別に見ると、国語では、「書くこと」「読むこと」の領域だけが全国平均を少し下回っている。算数では、全領域で全国平均を上回っている。一方で、中低位層の人数も減少傾向にあるが、固定化されている状況が見受けられる。さらに個別最適な学びを推進していく必要がある。児童質問紙の回答では、朝食の喫食率が高いことや規則正しい生活が送られていることから、家庭環境が安定していることが分かる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕領域別にみてみると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」は1.6P、「情報の扱い方に関する事項」は3.8P、「話すこと・聞くこと」は2.5P、それぞれ全国の平均正答率より上回っている。一方で「書くこと」は4.3P、「読むこと」は1.1P下回っている。自分の考えをまとめる問題の無回答率が高いことから、苦手意識をもちあきらめてしまっている傾向があると考えられる。

〔算数〕領域別にみてみると、「数と計算」は3.8P、「図形」は8.3P、「変化と関係」は、1.5P、「データの活用」は、3.2P、それぞれ全国の平均正答率より上回っている。領域については、全国平均と比べて特に正答率の低い分野はないが、問題の傾向をみると、意味や性質から構成要素を考察するものなど、知識の活用が必要とされる応用的な問題に課題がみられる。

質問紙調査より

昨年度までに比べると、自尊感情に関わる部分や将来の目標や夢に関わることについては肯定的な回答が増えつつあるが、全国平均よりもやや低い傾向が見受けられる。「学校は楽しいと思うか」という質問に対して否定的に答える児童が一定数いることから、集団全体としては特に問題がないようでも、個人としてみた場合には課題を抱えている児童がいることは明確である。ただし、一人一人の感じ方や考え方方が多様で複雑になってきているため、支援の仕方については難しいところもあるのが現状である。

今後の取組(アクションプラン)

今年度の分析結果を受けて、これまで本校で取り組んできた、1時間1時間の授業を大事にすることや、きめ細やかな習熟度別少人数学習が、児童の基礎基本の定着に有効であるといえる。また今年度より、算数科の研究を進めている。「わかる」喜びを体感させることで自力解決の力を育んでいる。これまでの知識・技能中心の学習から、思考力や学びに向かう力をどう育成していくのかということを前提に授業づくりを進めていくことが大切である。学力に関しては、個別最適な学びと協働的な学びを一体として扱いながら、どう充実したものにしていくのかが鍵となる。その際、ICTの活用は必須である。さらに一人一台学習者用端末等のICT機器の有効的な活用等を目指し、研修や実践を通して、教師の指導力向上を推進する。

【 全体の概要 】

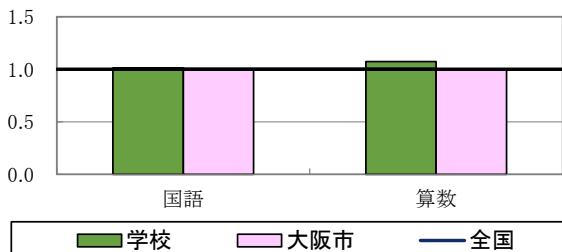
平均正答率 (%)

	国語	算数
学校	68	67
大阪市	67	62
全国	67.2	62.5

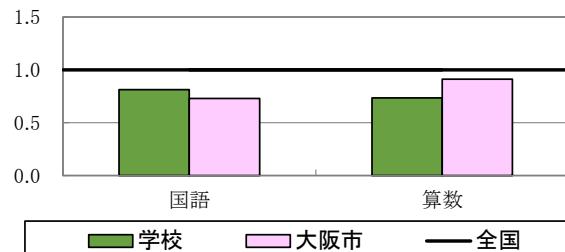
平均無解答率 (%)

	国語	算数
学校	3.9	2.5
大阪市	3.5	3.1
全国	4.8	3.4

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



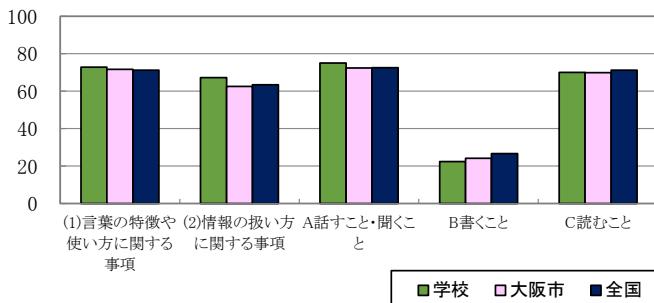
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	5	72.8	71.7	71.2
(2)情報の扱い方に関する事項	2	67.2	62.6	63.4
(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	3	75.1	72.4	72.6
B 書くこと	1	22.4	24.2	26.7
C 読むこと	3	70.1	69.9	71.2

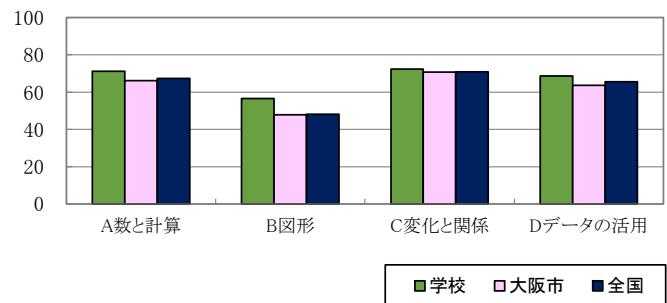
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	71.1	66.1	67.3
B 図形	4	56.5	47.8	48.2
C 測定	0			
C 変化と関係	4	72.4	70.8	70.9
D データの活用	3	68.7	63.6	65.5

国語 領域別正答率(学校、大阪市、全国)

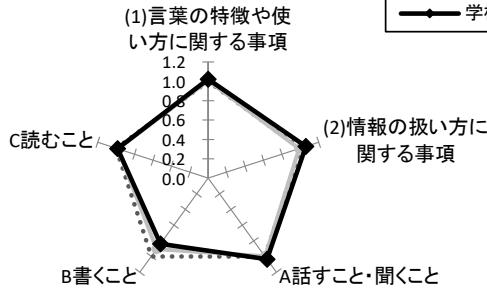


算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



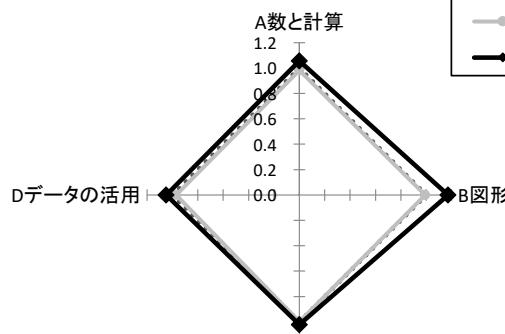
国語 領域別正答率(対全国比)

.....全国
—大阪市
—学校



算数 領域別正答率(対全国比)

.....全国
—大阪市
—学校

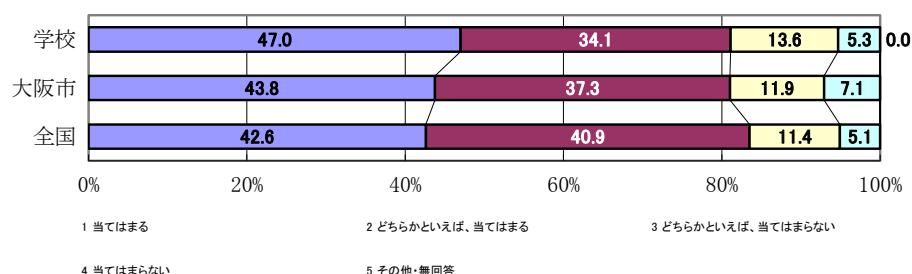


(3-1)

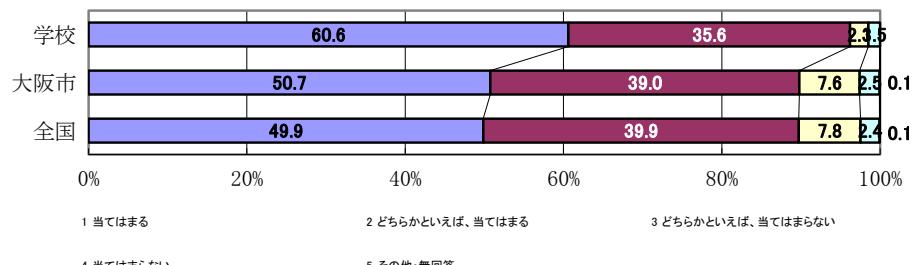
児童質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

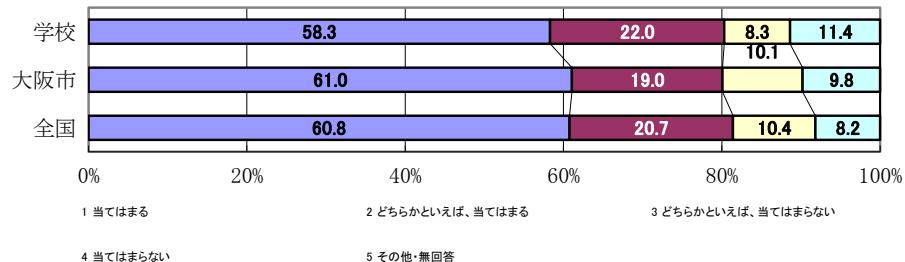
質問番号
質問事項
4
自分には、よいところがあると思う



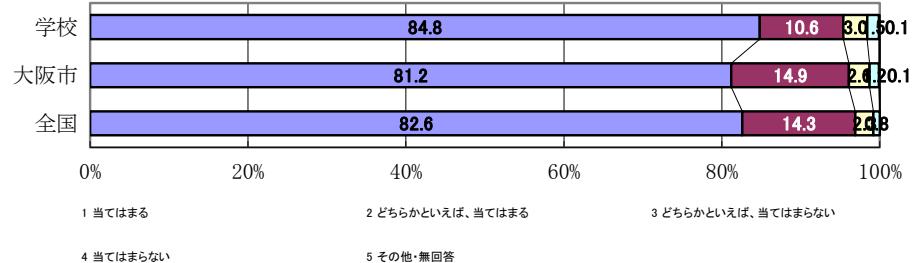
5
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う



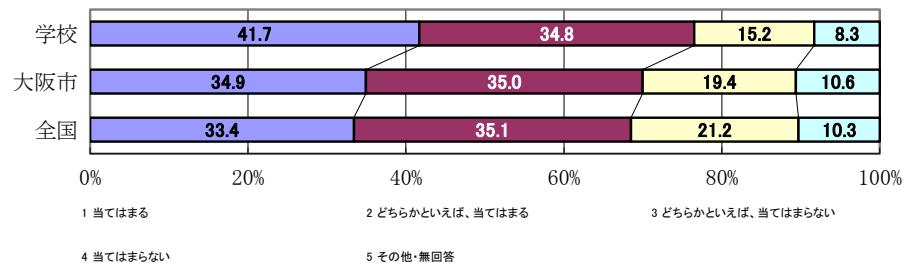
7
将来の夢や目標を持っている



9
いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思う



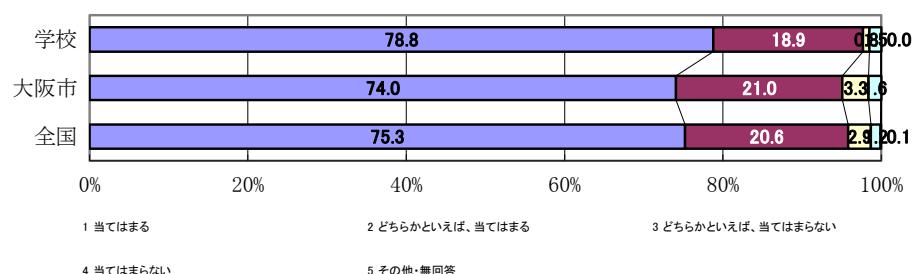
10
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる



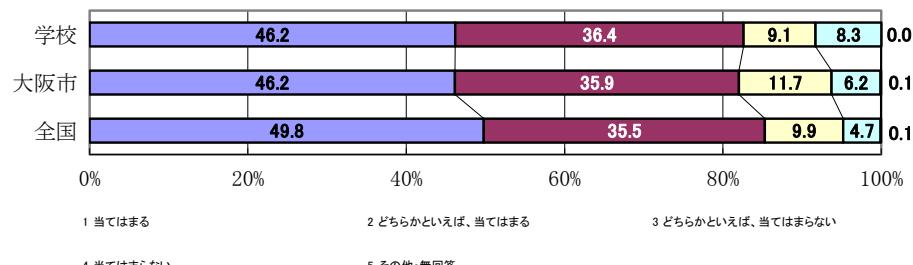
児童質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

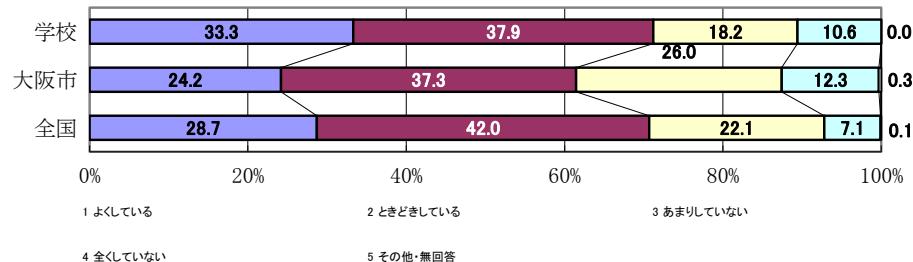
質問番号
質問事項
11
人の役に立つ人間になりたいと思う



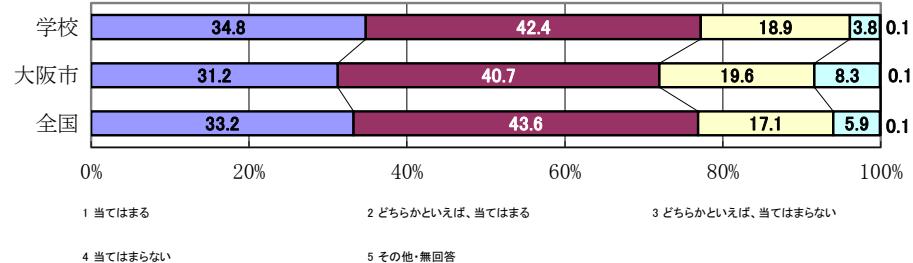
12
学校に行くのは楽しいと思う



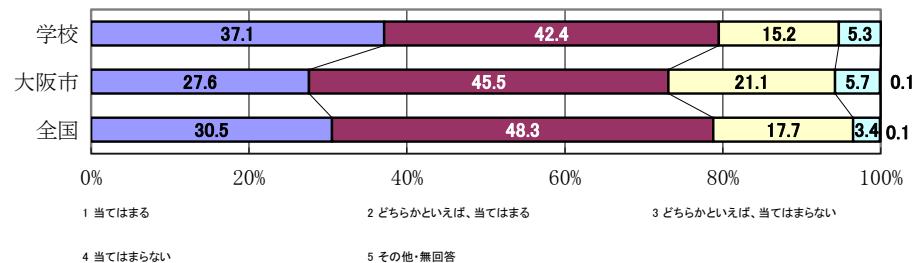
16
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含みます)



26
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う



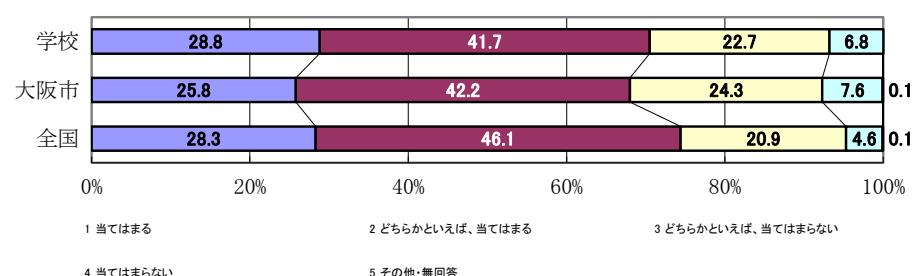
33
(5年生までに受けた)授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた



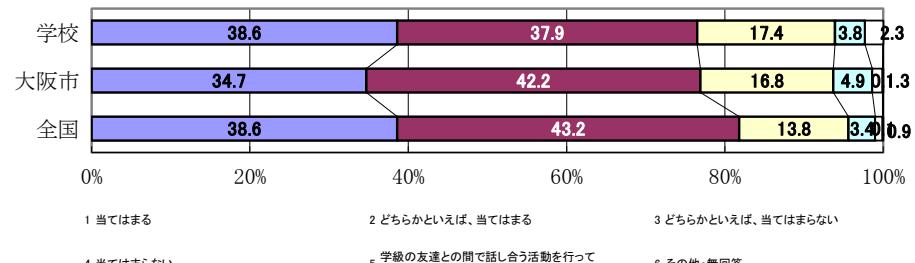
児童質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

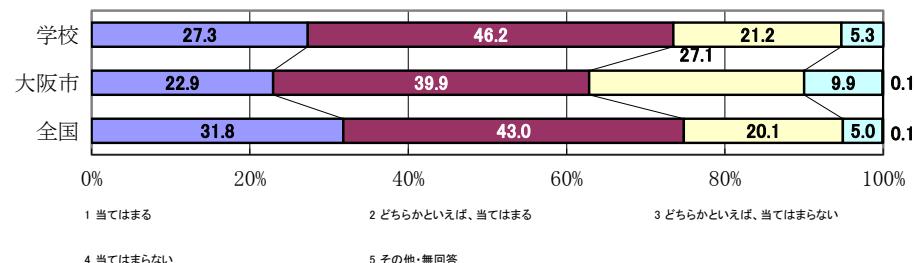
質問番号
質問事項
34
(5年生までに受けた)授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた



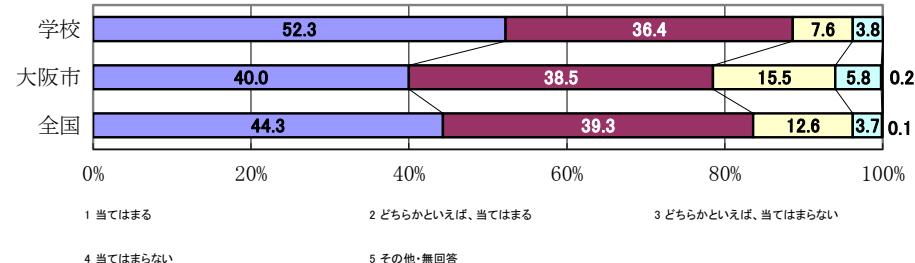
36
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



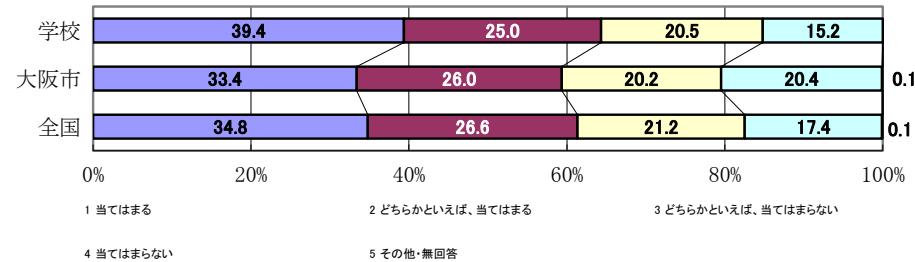
39
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる



42
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる



51
算数の勉強は好きだ



学校質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

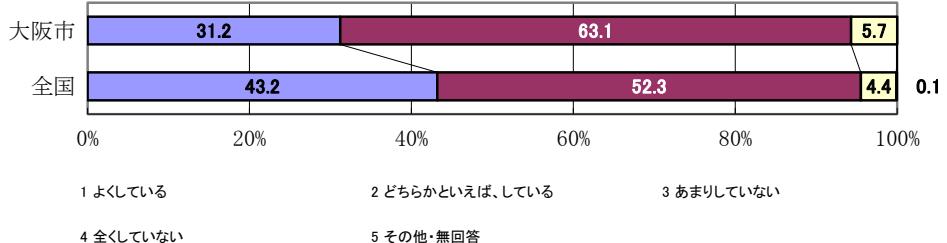
質問番号

質問事項

20

指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている

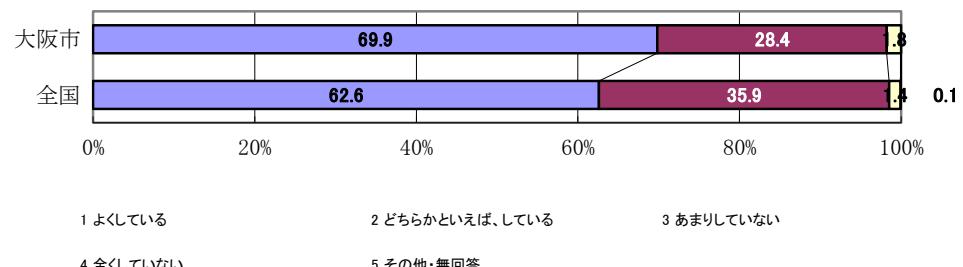
学校 「どちらかといえば、している」を選択



22

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っている

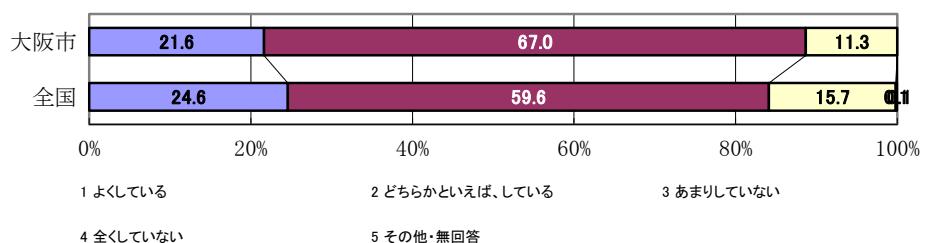
学校 「よくしている」を選択



24

個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加している（オンラインでの参加を含む）

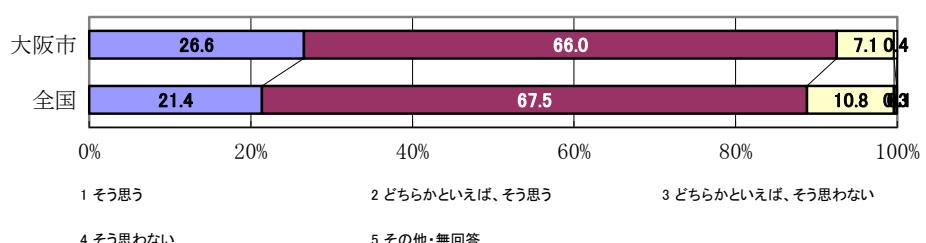
学校 「どちらかといえば、している」を選択



26

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている

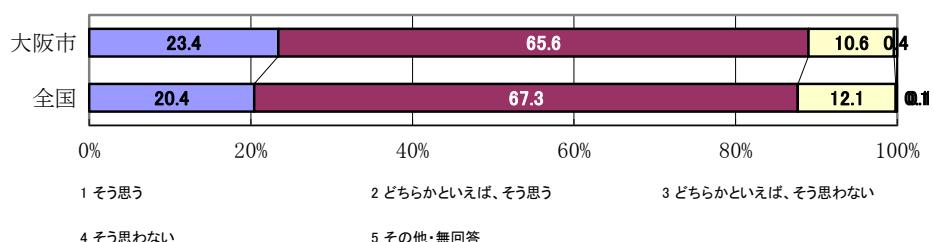
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



28

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができている

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



学校質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

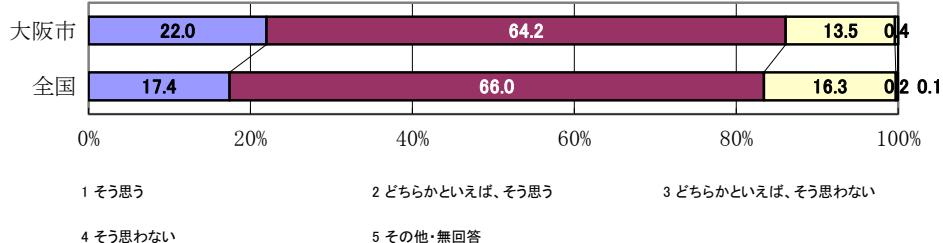
質問番号

質問事項

29

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている

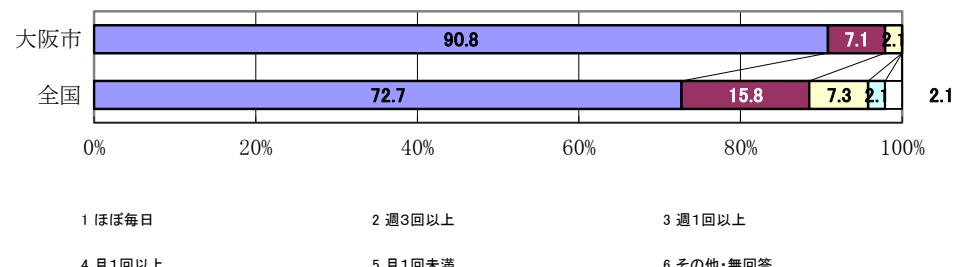
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



52

前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

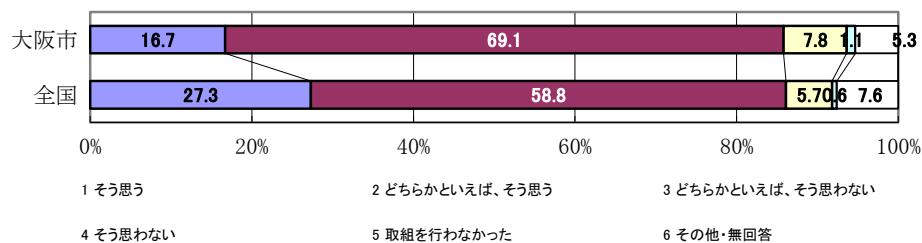
学校 「ほぼ毎日」を選択



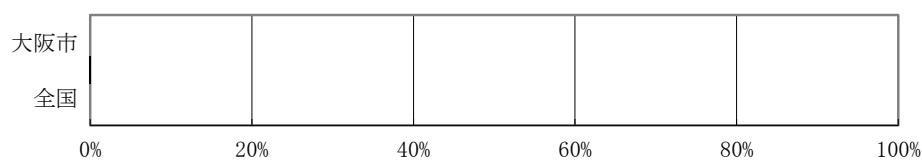
74

コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



学校 「」を選択



学校 「」を選択

